

研 究 分 野	生態系	部 名	調査普及部
研 究 課 題 名	保護水面管理事業		
予 算 区 分	水産業振興費 (国1/2) (令達)		
試験研究実施年度・研究期間	S.38 ~ (今回報告：H.13~15)		
担 当	榊 昌文 (H.13、14)、二木 幸彦 (H.15)		
協 力 ・ 分 担 関 係	大畑町漁協、大畑町、むつ水産事務所		

〈目的〉

スギノコ (サクラマス陸封型) が生息する大畑川保護水面において、魚類分布状況調査等を実施し、保護水面の適正管理に資する。

〈試験研究方法〉

1 魚類分布調査 (2001~2003 年：10 月)

大畑川保護水面の本流及び支流 (囲沢、仁部沢、長次郎川、上狄川) におけるエレクトリックショッカーによる棲息魚類の調査

2 イワナ駆除試験 (2003 年：6 月)

大畑川保護水面の本流及び支流における地元遊漁者 21 名 (各班 3 名で 7 班編成) での釣り等によるイワナの駆除試験

〈結果の概要〉

1 魚類分布調査

○大畑川保護水面においては、過去に棲息していなかったイワナが 1999 年 11 月に本流で採捕されている。

○2001~2003 年に実施した魚類分布調査では本流及び各支流で、スギノコ及びイワナが採捕されたが、他の魚類は採捕されなかった。

○イワナの採捕率は増加傾向にあり、2003 年には 50%を超え、76.5%となった (表 1)。

○魚体組成ではイワナの稚魚も見られ、保護水面内で繁殖していることがわかった (表 2)。

2 イワナ駆除試験

○釣りでは、イワナ採捕率が 6.3% (長次郎川) ~16.7% (囲沢) と低かった (表 3) が、大型魚が多く (表 4)、滝壺や大きな淵での大型魚採捕には有効と考えられた。

○投網では、イワナ採捕率が 16.7% (仁部沢) 及び 66.7% (本流) であった (表 3) が、操業に適した場所は少なかった。

○持網では、岸辺の木、木の根、草等により覆われた場所に設置し、上流部からの追込みにより、イワナ採捕率が 76.5%と高かった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

表1 魚類分布調査イワナ採捕率

調査年月	イワナ 採捕尾数 A 尾	スギノコ 採捕尾数 B 尾	イワナ 採捕率 A/(A+B)%
2001年10月	23	37	38.3
2002年10月	66	86	43.4
2003年10月	107	44	70.9

表2 魚類分布調査魚体組成

尾叉長	イワナ			スギノコ		
(cm)	2001年	2002年	2003年	2001年	2002年	2003年
0～5						
5～10	1	27	20	13	17	4
10～15	2	7	33	9	38	13
15～20	10	12	39	8	30	26
20～25	9	19	13	7	1	1
25～30		1	2			
30～35	1					
計	23	66	107	37	86	44

表3 イワナ駆除試験イワナ採捕率

漁法	実施場所	イワナ 採捕尾数 A 尾	スギノコ 採捕尾数 B 尾	イワナ 採捕率 A/(A+B)%
釣り	本流	27	191	12.4
	囲沢	16	80	16.7
	仁部沢	1	13	7.1
	長次郎川	4	60	6.3
	上狄川	12	91	11.7
	計	60	435	12.1
投網	本流	6	3	66.7
	仁部沢	1	5	16.7
	計	7	8	46.7
持網	仁部沢	13	4	76.5
合計		80	447	15.2

表4 イワナ駆除試験魚体組成

尾叉長	イワナ			スギノコ		
(cm)	釣り	投網	持網	釣り	投網	持網
0～5						
5～10					1	
10～15	11	6	3	3	5	1
15～20	12	1	4	9	2	2
20～25	23		2	1		
25～30	6					
30～35						
計	52	7	9	13	8	3

〈今後の問題点〉

- イワナの効率的駆除の実施

〈次年度の具体的な計画〉

- 魚類分布調査（10月）
- イワナ駆除試験（具体的な方法は今後関係者間で協議）

〈結果の発表・活用状況等〉

- 各年の調査結果報告書は、大畑町漁協、県水産振興課、県むつ水産事務所に送付した。
- 2002年、2003年は、大畑町において、関係者会議を開催し、これまでの調査結果、イワナ駆除方法の検討を行った。